

イスラム国家論研究会例会略史（2）1988～1997年

回数	年 度	年	月 日	シンポジウム題名	発表者	所 属（案内状）	題 名	コメンテーター	
1～92	1975/昭和50年度～1987/昭和62年度				「イスラム国家論研究会例会略史（1975～1987）」に記録あり				
93	1988/昭和63	1988	0528	シンポジウム「近世」 イスラム国家の構造と変容」	羽田 正		「近世国家」としてのサファヴィー朝とオスマン帝国	加藤博、川本正知	
					鈴木 董		オスマン帝国の変容：16世紀から18世紀へー		
94			0709		松本 暢子		シャー・アッパース 1世の地方政策		
95			1022		岩武 昭男		ニザーム家のワクフ		
96			1217		太田 敬子		アラビア語写本の校訂とそれに伴う問題点：Ibn al-Shihnaのアレッポ史の校訂より		
97			0225		岩井 秀子		ウィラーヤと〈国家〉：12イマーム・シーア派における法・政治社会		
98		1989	0515	シンポジウム「外からみた 「イスラム都市」	濱下武志・陣内秀信・樺山紘一			梅村坦・谷水潤・私市正年	
99			0610		今澤 浩二		オスマン朝とティムール：14世紀末のアナトリアをめぐる諸情勢		
100			0715		新井 政美		1910年代におけるトルコ民族主義者の組織化について		
101			1125		清水 和裕		アッパース朝のアトラークと奴隷軍人		
102			1216		設楽 國廣		アンカラの変容：共和国の首都への道		
103		1990	0120		谷口 淳一		11世紀前半のハラブHalab		
104			0707		花田 宇秋		イスラム国家の起源		
105			1124		帯谷 知可	東京大学大学院	フェルガナにおけるバスマチ運動1917ー1924		
106		1991	0601		松本 弘	上智大学アジア文化研究所	北イエメンにおける地方行政制度と部族構造		
107			0928		大稔 哲也	東京大学大学院	オールド・カイロの生活誌		
108			1102		三沢 伸生	慶応大学大学院	オスマン朝治下の地方都市：16世紀の検地帳による考察		

イスラム国家論研究会例会略史（2）1988～1997年

109			1207		近藤 信彰	東京大学大学院	18・19世紀ヤズドのー地方名家：モハンマド・タギー・ハーンとその一族		
110			1221		菅原 純	青山学院大学大学院	1864年新疆ムスリム反乱：各オアシスの動向		
111		1992	0201		松田 俊道	東洋文庫奨励研究員	マムルーク朝時代の上エジプトにおけるウルバーンとファッラーフの反乱について		
112			0229		磯貝 健一	京都大学大学院	16世紀初頭の中央アジアにおける支配者とウラマー		
113（再出版/新生第1回）	1993/平成5		0508	シンポジウム「イスラームにおける地域意識」	高野 太輔	東京大学大学院		佐原 徹哉	
					三沢 伸生	日本学術振興会		山口 昭彦	
					菅原 純	青山学院大学院		後藤 裕加子	
114			0612		黒岩 高	東京大学大学院	18世紀中国西北部のイスラム聖者をめぐる社会集団形成		
115			0710		今松 泰	神戸大学大学院	19世紀後半のオスマン朝におけるベクタシュ教団：イスハク・エフェンディのベクタシュ教団論駁の書について		
116			1120		岩崎 葉子	アジア経済研究所	イラン繊維産業：研究への足掛かり		
117			1218	シンポジウム「イスラームにおける地域意識」 part2	堀井 聡江	東大大学院博士課程 イスラム学			
					山中 由里子	東大東文研助手		仁子 寿晴	
118		1994	0219		村田 靖子	京都大学大学院	アンダルスにおけるムフタシブとスーク		
119			0310		後藤 裕加子	東京大学大学院	13、14世紀イランにおける3つの地方政権：フォーク・イスラム抬頭に関する考察		
120			0416		松井 康子	慶応大学大学院	イスラムの辺境・海港都市セウタ：その景観と人々		
121			0521		森本 一夫	東京大学大学院	ターリビーユーンの系譜学：系譜学者と『サイイド』たち		

イスラム国家論研究会例会略史（２）1988～1997年

122			0618	第3回シンポジウム「イスラームにおける文学と歴史意識」	岡 真理	東京外国語大学非常勤講師		山中 由里子	
					近藤 信彰	東京大学大学院東洋史		山尾 京子	
123			0716		青山 弘之	一橋大学大学院	シリア・ムスリム同胞団の政治活動：イスラム社会主義から	飯塚 正人	
124			1015		平野 豊	明治大学大学院	16Cサファヴィー朝の「首都」ガズヴィーンの文化状況について		
124			1119		栗山 康之	中央大学大学院	イエメン・ラスール朝初期政治史とウラマー		
126			1217		高野 太輔	東京大学大学院	ネストリウス派のカトリコス：もう一つの西アジア史		
127		1995	0121	<シンポジウム>93-94年のイスラーム関係出版物・出版事情を振り返って	山岸 智子	東大大学院/民族学			
					大川 玲子	東大大学院/宗教学			
					清水 和裕	東大大学院/歴史学			
128			0225		渡部 良子	東大大学院	イルハン朝のタージーク官僚：中央統治体制と権力構造		
129	1995年度		0520		伊藤 隆郎	京都大学大学院	14世紀末-16世紀初頭エジプトのカーディー		
130			0616	留学・現地調査をめぐって	堀井 優	東大大学院	カイロ 留学		
					大河原 知樹	慶応大学大学院	ダマスカス 留学		
131			0715		近藤 真美	京都大学大学院	ファトワーをとおして見た14世紀のシリア		
132			1118		佐藤 健太郎	東京大学大学院	8世紀アンダルスとイフリキーヤにおけるアラブ初期移住者：フィフル家を中心に		
133		1996	0127		佐原 徹哉	東京都立大	19世紀オスマン都市社会の変容について		
134			0217		益子 圭一	東京大学大学院	ペルシア文学と霊鳥像		

イスラム国家論研究会例会略史（２）1988～1997年

135	1996年度		0427		大北 けい	京都大学大学院	Şadıqî'nin Qānūn al-şuvar	平野 豊	
136			0518		安藤 潤一郎	東大大学院	清末民国期における「回民」エスニシ ティーの形成（緒論）	黒岩 高	
137			0622		大川 玲子	東大院	クルアーン受容に関して：祈禱句イスティ アーザを中心として		
138			0720		堀井 優	東大大学院	15世紀後半以降の 맘ルーク朝ヨーロッパ 居留民	今澤 浩二	
139			1019		森島 聡	東外大院	国民国家イランにおけるファルハングス ターネ・イランの役割について	セバンター・バギーギ	
140			1123		松井 真子	東京大学大学院	アナトリア・アヘンの専売制と1838年英土 通商条約		
141			1214		吉田 京子	東京大学大学院	サドゥークのガイバ論における物語とその 機能		
142		1997	0125		秋葉 淳	東京大学大学院	ウラマーと国家：1826年以後のオスマン帝 国におけるウラマー制度の改編	粕谷 元	
143			0215		Chrisoph Werner	University of Bamberg	Aspects of Iranian Urban History: Tabriz 1747- 1848		
144	1997年度		0426		柴山 滋	中央大学大学院	バリーディー家に関する考察：同家の軍隊 編成と対外関係を中心に		
			以後、右ウェブサイトにて例会記録あり <a href="https://islamkokkaron.blogspot.com/p/blog-page_6.html">https://islamkokkaron.blogspot.com/p/blog-page_6.html</a>						
			1998/0523まで案内ハガキ原紙東洋文庫にあり、1998/0609以降東大文学部（西アジア研究室）に事務を移動、「イスラーム地域研究」（東京大学拠点）が支援						
	2010年4月、NIHUプログラム「イスラーム地域研究」との連携に伴い、会の名称を「イスラーム地域研究・若手研究者の会」に変更。								